

野菜

教 科	農 業	単 位 数	2 単 位	学科・学年	園芸科学科・3年
使用教科書	野菜（実教出版）				
副教材など	プリント				

科目の概要、到達目標

- 本校で栽培されているキュウリ、トマト、メロンの栽培と経営に必要な知識と技術を習得し、野菜の特性や、栽培に適した環境を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力や、態度を身に付けるための科目です。
 ○特に3年生では、野菜生産の動向や栽培技術、施設の改善や経営改善など、発展的な分野の学習を行います。

学習計画、自己評価

期	月	学 習 内 容	学習のねらい	自己評価		
前 期	4	促成栽培の果菜類の特性と栽培技術	<ul style="list-style-type: none"> ・キュウリの栽培生育と環境 ・整枝と結果習性 ・病害虫の防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ摘心栽培の初期生育から孫づるの整枝への過程を説明できる。 ・土壌水分、養分および施設の湿度と温度がキュウリの生育への影響を考える。 	()	
	5	野菜の施設・設備とその利用	<ul style="list-style-type: none"> ・メロンの栽培生育と環境 ・交配と果実の肥大 ・病害虫の防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・アールスメロンの主枝の摘心位置と結果枝の関係について理解する。 ・交配の方法とその意味を説明する。 	()	
	6		<ul style="list-style-type: none"> ・トマトの栽培生育と環境 ・灌水コントロール ・病害虫の防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・トマトの着果で、ハチやホルモン処理の関係について理解する。 ・トマトの灌水と収量と品質の関係について考え、灌水量を設計できる。 	()	
	7		野菜生産の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・経営上の特性 ・作型と品種の選び方 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜生産の岐阜地区の現状をふまえて経営スタイルを発表する。 	()
	8	抑制栽培・越冬栽培の果菜類の特性と栽培技術	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・予冷技術について理解する。 	()	
	9		<ul style="list-style-type: none"> ・キュウリの栽培生育と環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・キュウリとトマトの抑制栽培の病害虫防除の体系について理解する。 	()	
	後 期	10	施設・設備とその利用	<ul style="list-style-type: none"> ・整枝と結果習性 ・病害虫の防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・TYLCSVとMYSVについて、その被害と対策について理解する。 	()
		11		<ul style="list-style-type: none"> ・トマトの栽培の環境制御 ・生育と環境 ・病害虫の防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・越冬栽培に必要な、施設設備と環境制御について、パイプハウスと温室の2パターンを考え設計する。 	()
		12		<ul style="list-style-type: none"> ・流通の仕組み ・輸入される野菜 ・野菜生産の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔬菜園芸における、市場流通と市場外流通のメリットを理解する。 ・輸入野菜の品質維持にかかわる流通の技術の課題と地域農業に関わる問題についてレポートを作成する。 	()
1		野菜生産の経営改善	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者を設定して20年の計画を作成する。 	()		
2						
3						

評価の観点、方法

- 定期考査、提出物（ノート、レポートなどの課題）、学習の状況について、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点から評価します。
 ○生徒の自己評価や相互評価についても行います。

定期考査の範囲、課題

前 期	中間考査範囲	
	期末考査範囲	
期	夏休みの課題	
後 期	中間考査範囲	
	学年末考査範囲	
期	冬休みの課題	